

交流・文化施設等整備検討委員会 「第2回専門委員会」

会 議 次 第

日 時：平成20年11月21日（金）午前10時～
場 所：（財）都道府県会館 406号室

1. 開 会

2. 副市長あいさつ

3. 委員長あいさつ

4. 議 事

（1）部会の設置と検討結果について

①公園広場部会について

資料1

②美術館部会について

資料2

（2）今後の進め方について

資料3

（3）その他

5. 閉 会

●配布資料

- ・資料1 公園広場部会の概要、関連資料
- ・資料2 美術館部会の概要、関連資料
- ・資料3 検討委員会の進め方について

交流・文化施設等整備検討委員会 専門委員会 委員名簿 (敬称略)

氏名	職業等	役職名等	部会構成		
			ホール	美術館	公園広場
ひばちやすお 日端康雄	慶應義塾大学名誉教授	交流・文化施設等整備 検討委員会委員長 専門委員会委員長	○	○	○
つちもととしかず 土本俊和	信州大学工学部教授	交流・文化施設等整備 検討委員会委員	○	○	○
みやまよしお 美山良夫	慶應義塾大学文学部教授 慶應義塾大学アート・センター一副所長	交流・文化施設等整備 検討委員会委員 専門委員会副委員長	○		
いとうようこ 伊藤羊子	長野県信濃美術館主任学芸員	交流・文化施設等整備 検討委員会委員		○	
さだしげり 佐田繁理	(株)さだ企画代表取締役社長		○		
つむらたかし 津村 卓	(財)地域創造芸術環境部プロデューサー		○		
せきたまさゆき 関田正幸	(社)日本クラシック音楽事業協会副会長 (財)ジェスク音楽文化振興会専務理事	上田市出身	○		
おおたけい 太田 圭	筑波大学人間総合科学研究科准教授	上田市出身		○	
たきざわまさゆき 滝澤正幸	長野県立歴史館主査学芸員	上田市出身		○	

計9名

6名

5名

2名

公園広場部会の概要

- 1 日時 平成20年11月11日（火） 午後5時から午後7時まで
- 2 会場 上田市役所本庁舎 3階 第2応接室
- 3 出席者 日端座長、土本委員
市側出席者 大沢政策企画局長以下7名
- 4 内容 『市民公園・広場』の検討にあたって地区計画や、全体計画との整合性などを確認し、隣接地や市街地との関連について検討を行った。
- 5 会議で出された意見

（市民公園・広場について）

- ・市民の皆さんがイメージしている一般的な公園としては、千曲川の流れを利用した水と緑の公園がよい。
- ・施設と公園広場を文化ゾーンとして整備するならば、ごく一般的な公園では面白味がない。
- ・街路樹として桜の植栽が考えられるが、この場合、一部でなく JT 跡地全体に同じテーマを持って行う必要がある。
- ・既存林の移植は経費大、移植後は生育が良くない例もある。必要に応じて伐採し、新たにそれ以上植えた方が将来的価値・意義ともに大きい。

（JT 跡地全体計画について）

- ・区画整理事業の中で公園の位置がある程度決まっているようだが、検討の中で変更も必要。
- ・アリオ、警察署との連続性が重要であり、そのためには各施設の内容・機能の把握が必要。
- ・JT 跡地の全体計画として各施設の相互協力が必要。
- ・施設や機能の要望は様々。アリオとの役割分担が必要。特に飲食店。
- ・JT 跡地全体の中で、歩行者と車両を分離するような方策が必要。ありきたりな街の景観になる恐れがある。
- ・利用者の立場から、各建物、道路、公園、駐車場を個々ではなく一体として考える必要がある。
- ・自然環境への配慮は、全ての施設での共通コンセプトとすべき。

（地区整備計画について）

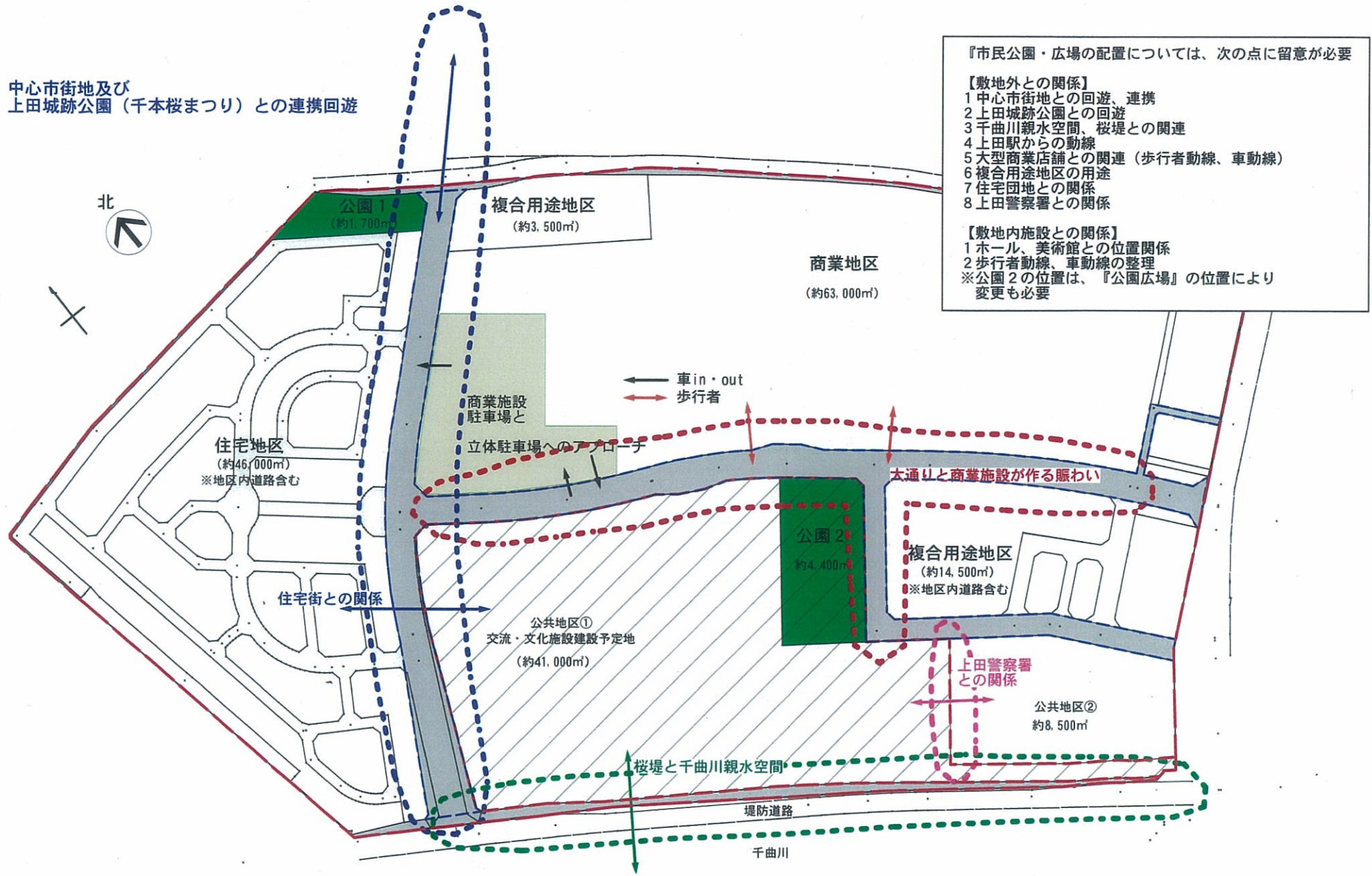
- ・高さ制限について、文化施設の最高部分というわずかな部分まで一概に制限するのはいかなるものか。25mなら景観上問題なく、35mならだめという根拠も不明。
- ・高さ制限のためだけに地下掘削はできない、コストが非常に大きい。土地利用上、設計上でも不適當。地区計画変更も検討。
- ・高さ制限について、「公共公益上～この限りでない」との但し書きを適用させる。この際、設計コンペ時の条件として、景観配慮について詳細に規定する。

（景観、設計等について）

- ・恐らく半世紀以上も上田のシンボルとなること、また文化施設ということから、この施設は外観が非常に重要。
- ・ホールと美術館の分棟は建設費が大きくなるが、公園等との全体配置を考え、中庭や廊下でつながるなどの案も必要。
- ・設計コンペの範囲を建物部分のみとするか敷地全体とするか、ある程度の方向性を明確にしておくことが必要。

地区計画、隣接地との関連について 地区全体検討

平成20年11月21日
 交流・文化施設等整備検討委員会
 第2回専門委員会 資料1-2



中心市街地及び
 上田城跡公園（千本桜まつり）との連携回遊

『市民公園・広場の配置については、次の点に留意が必要』

- 【敷地外との関係】
- 1 中心市街地との回遊、連携
 - 2 上田城跡公園との回遊
 - 3 千曲川親水空間、桜堤との関連
 - 4 上田駅からの動線
 - 5 大型商業店舗との関連（歩行者動線、車動線）
 - 6 複合用途地区の用途
 - 7 住宅団地との関係
 - 8 上田警察署との関係

- 【敷地内施設との関係】
- 1 ホール、美術館との位置関係
 - 2 歩行者動線、車動線の整理
- ※公園2の位置は、『公園広場』の位置により変更も必要



住宅地区
 (約46,000㎡)
 ※地区内道路含む

住宅街との関係

複合用途地区
 (約3,500㎡)

商業施設
 駐車場と
 立体駐車場へのアプローチ

← 車 in・out
 → 歩行者

商業地区
 (約63,000㎡)

大通りと商業施設が作る賑わい

公園2
 約4,400㎡

複合用途地区
 (約14,500㎡)
 ※地区内道路含む

上田警察署
 との関係

公共地区②
 約8,500㎡

公共地区①
 交流・文化施設建設予定地
 (約41,000㎡)

桜堤と千曲川親水空間

堤防道路

千曲川

美術館部会の概要

- 1 日時 平成20年11月13日（木） 午後3時から午後5時まで
- 2 会場 上田駅前ビルパレオ 2階会議室
- 3 出席者 委員側：日端座長、伊藤委員、太田委員、滝澤委員、【欠席委員】土本委員、
市側：石黒副市長以下9名
- 4 内容 郷土の作家4人（山本鼎、石井鶴三、ハリー・K・シゲタ、中村直人）について理解を深め、これら常設展示の必要性を中心に議論を行う。

（参考）

- 山本鼎：児童自由画運動、農民美術運動等、近代日本美術史で重要な作家。
石井鶴三：上田で半世紀に亘り彫刻講習会の講師を務めた近代彫刻会を代表する彫刻家。
ハリー・K・シゲタ：上田市出身、渡米し商業写真で成功を収めた。
中村直人（なおんど）：上田出身、国際的画家。渡仏しパリの展示会で高い評価を受けた。

5 会議内で出された意見

（常設展示、企画展示について）

- ・郷土作家は彼らの思想や影響力が非常に重要。それらを表現する常設展示が必要。
- ・郷土作家は作品だけでなく、関連資料を展示することでより身近に感じられる。
- ・山本鼎や石井鶴三は、関連するキーワードに基づいて全国コンクール規模の企画ができる。非常に可能性、タレント性のある作家。
- ・山本鼎の思想を拡大解釈すれば、エイブルアートに着目し、東信地域で盛んな、障害者の芸術作品の企画展示も可。
- ・子ども達が作品に触れることで、「過去と未来の交流」が生まれる。コンセプトとして重要。
- ・「体験・参加型」の事業が重要。
- ・鑑賞を好む人、創造を望む人など、様々なニーズがあり、それらに対応することが重要。
- ・郷土作家4人とも、「体験・参加型」の、「広がり」を持ちうる素晴らしい作家達。
- ・作家同士の相関関係があり、例えば山本鼎と石井鶴三に絞る、というのは不適当。
- ・市に多くの所蔵作品がある以上は、基軸となる作家を替えながらも、常に展示していく部屋が一室は必要。
- ・美術関係者の立場からすれば、「上田に来れば山本鼎を観ずには帰れない」という程のもの。
- ・「上田の駅を降りれば常に山本鼎の資料が見られる」という状態は必要。
- ・上田市には古い文化財が多く、郷土作家4人の展示を基本にしながら、これらも同時に展示。
- ・中村直人のご親族も現在は日本にお住まいであり、顕彰にあたっては協力いただけるはず。
- ・「誰も知らない」ということは、逆に「今後売り出す資源がこんなにも多くある」ということ。
- ・郷土作家の常設展示については必要というのが結論。
- ・作品保護の観点から、全ての作品を展示するのではなく、保管と展示を交互に行う。
- ・全ての所蔵作品が展示されていると、いつ来館しても同じ作品を観ることになる。
- ・上田の4人の郷土作家は一般的な認知度は低いため、常設だけでなく企画展示も重要。
- ・有名な展覧会が望まれているが、経費数千万円の有名展覧会は県レベルでも十数年に一度程度。
- ・コンセプトに基づいたソフト事業を今から考えていく必要がある。
- ・年に数回は大規模企画展示も必要。ただしそれ以外の期間は、市民や子どもの作品展、市民所蔵作品展などを開催。
- ・郷土作家の常設スペースも、企画展等の際には利用する。
- ・常設スペースを固定しないことで、柔軟かつ効率的な利用が可能。

(施設について)

- ・大規模企画展示のために、共用スペースを多く持つ。
- ・常設スペースには、温湿度管理が可能なエアタイトのガラスケースがあれば理想的。
- ・展示面積 1,500 m²規模の企画は経費負担大。そこまでは不要。
- ・県展は約 1,600 m²必要といわれているが、この面積は県展の期間以外の利用困難。多目的ホール等を使用する。
- ・有名作家等の作品展示への希望も高く、ガラスケースなどの確保は必要。
- ・上田の文化財を保管する収蔵庫が必要。
- ・収蔵庫は、最低 600 m²程度は必要。良い収蔵庫があれば、寄贈作品が集まる可能性がある。
- ・美術作品は運送コストが非常に大きい。企画展での作品借用等、実際の運営を考えれば収蔵庫は館内の設置必須。

(その他)

- ・何を創造していくか、市民への情報発信重要。「美術館を造る」だけでは市民理解得られない。
- ・何が行われ、何が観れ、何に参加できるのか、提示することで市民理解が得やすい。

美術館での常設展示方針

(現状と課題)

山本 鼎

- ・山本鼎記念館（展示面積 230 m²）は 46 年経過し、老朽化が激しい。
- ・市所蔵 1,114 点、寄託 7 点。
- ・収蔵庫が無く、倉庫で作品を保管している。
- ・史跡上田城跡内のため移転が必要。

石井 鶴三

- ・石井鶴三美術資料室は展示面積狭い（約 70 m²）。
- ・照明等の展示環境も不十分。
- ・市所蔵 26 点、教育会所蔵 667 点。
- ・収蔵庫が無く、倉庫で作品を保管している。

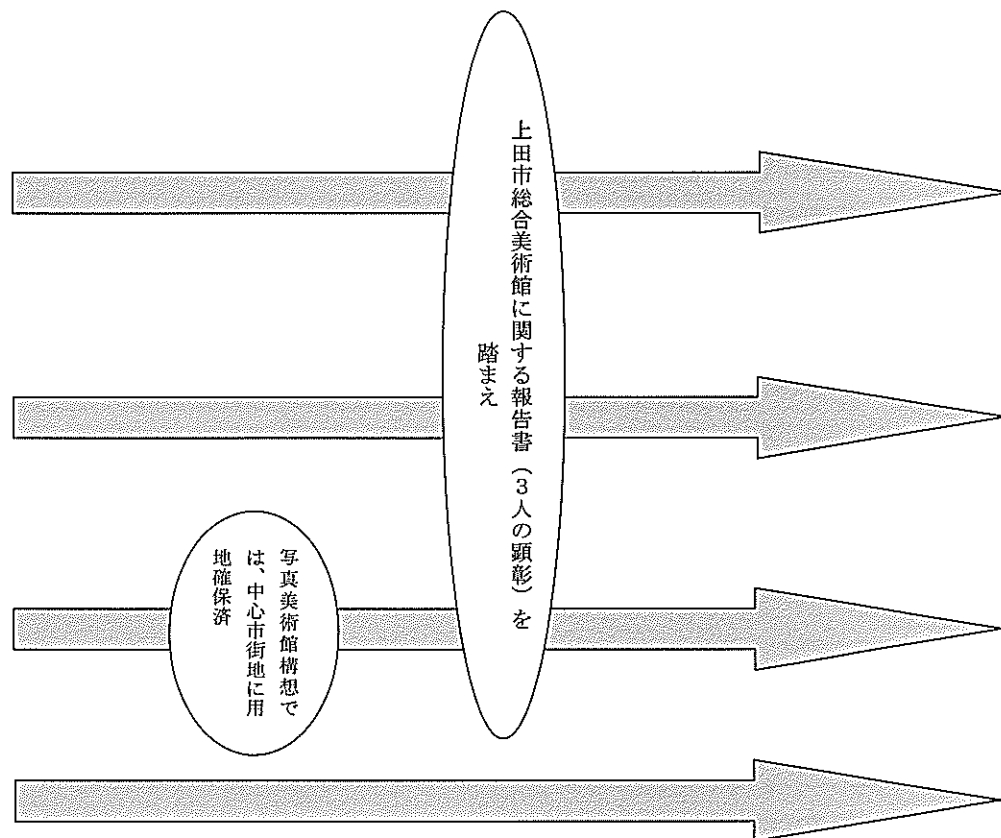
ハリー・K・シゲタ

- ・市所蔵 1,531 点の公開・展示する場所がない。
- ・写真美術館構想が総合美術館展示に方針転換してきている。

中村 直人

- ・市所蔵 20 点、寄託 97 点の公開・展示場所がない。

(背景)



(方向性)

郷土作家を中心とした常設展示

これまでに出版されている主な陳情、要望

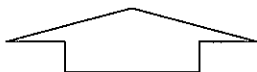
年月	団体名	要望の趣旨
H18. 5. 11	信州上田芸術文化会館（仮）建設研究市民の会（要望書）	市民会館、美術館一体となった総合文化施設
H18. 10. 31	山本鼎の会（要望書）	市民会館、美術館一体となった総合文化施設
H18. 11. 13	上小美術会／信州美術会上小支部（要望書）	市民会館、美術館一体となった総合文化施設
H18. 12. 20	上田彫塑研究会（陳情書）	市民会館、美術館一体となった総合文化施設
H18. 12. 25	上小教育会（要望書）	市民会館、美術館一体となった総合文化施設
H18. 12. 26	信州上田芸術文化会館（仮）建設研究市民の会ほか（連名）	市民会館、美術館一体となった総合文化施設
H20. 4. 22	信州上田芸術文化会館（仮）建設研究市民の会（要望書）	交流・文化施設に美術館を含めること

美術館での常設展示方針（詳細）

■ 各作家の所蔵作品、展示状況等

■ 基本方針、目標

上田市が全国にその魅力を発信していく手段として、また文化芸術の薫るまちづくりの一環として、郷土作家（山本鼎、石井鶴三、ハリー・K・シゲタ、中村直人の4人を中心とする）の常設展示と保管を行う。



■ 必要性、理由（※各作家の所蔵作品、展示状況等は右表参照）

- ・郷土作家の功績は非常に大きく、顕彰の必要があること
- ・市に多くの所蔵作品があること
- ・これらの収蔵庫がないこと
- ・郷土作家とその作品は上田市活性化のための隠れた資源であること
- ・山本鼎記念館が老朽化、また史跡内に位置し、移転を免れないこと
- ・石井鶴三美術資料室が作品の展示に耐えない状況であること
- ・ハリー・K・シゲタ、中村直人は作品を展示、保管する場所がないこと
- ・平成13年に「上田市総合美術館に関する報告書」を受けたが、具体化されないまま今に至っており、交流・文化施設整備に合わせてこの課題を克服すること
- ・写真美術館構想が現実的に困難であること
- ・美術団体から要望書、請願書が提出された経過があること

■ 展示方法

- ・常設展示室内で各作家の顕彰スペースを設ける
- ・展示期間ごとに主軸となる作家を替えながら展示
- ・版画、油彩、写真、参考資料等、様々な種類の作品を展示

■ 体験・参加型事業

作家に関連したテーマ、キーワードを設定し、企画展示室や市民ギャラリー等も利用しながら、児童・生徒・市民の作品展示、全国規模のコンクール、美術教室、講習会、講演会等を企画・開催する。

	山本鼎	石井鶴三	ハリー・K・シゲタ	中村直人
功績	日本創作版画協会を設立し、創作版画の父として近代日本美術史において重要な作家。児童自由画運動、農民美術運動等の功績が大きい。	上田で半世紀に亘り彫刻講習会の講師を務めた日本近代彫刻会を代表する彫刻家。信濃の美術教育に大きな影響を与えた。	上田市原町出身。アメリカに渡り、商業写真で成功を収めた。ピクトリアリズム（絵画的写真芸術）写真に挑戦し、数々の作品を遺した。	上田神川村で育ち、上田の風土から生まれた彫刻家・国際的な画家。戦後に渡仏し、パリの展示会で高い評価を受ける。
展示状況	山本鼎記念館で展示（展示面積約230㎡）	小県上田教育会内の2階資料室に展示（展示面積約70㎡）	展示なし	市役所庁舎内に一部展示
市所蔵数	1,114	26	1,531	20
寄託数	7	0	0	97
計	1,121	26	1,531	117
所有状況	鼎記念館での収蔵資料は、絵画、版画、水彩画、挿絵、その他関連資料等計1,121点。	市所有作品は全てブロンズ像で、小県上田教育会に寄託している。この他、教育会所蔵の作品667点がある。	写真約30点以外はネガで保存。現在、資料は創造館の収蔵庫へ保管を依頼している。	市所有の20点以外は個人が所有し、市が寄託。これらは創造館へ保管依頼している。
課題	・鼎記念館は46年経過し老朽化が激しい。 ・温湿度管理や照明等、展示環境が不十分。 ・収蔵庫が無く、倉庫で作品を保管している。 ・史跡上田城跡内のため要移転。	・展示面積が狭い。 ・元は講堂であり温湿度管理や照明等、展示環境が不十分。 ・収蔵庫が無く、物置で作品を保管している。 ・市へ全作品寄贈の意向ありと思われる。	・写真家細江英公氏から保存展示を条件に写真及び資料1,504点の寄贈を受け、その後も氏の紹介により作品等27点を購入したが公開、展示が進んでいない。 ・写真美術館構想から総合美術館展示に方針転換してきている。	・常設展示にあたっては、寄託作品所有者の協力が必要。
備考	・トリエンナーレ（山本鼎版画大賞展）により、全国に発信し、認知されつつある。	・H19年まで旧上田市立図書館で石井鶴三美術館を開設していたが、運営上の理由で現在の場所へ移転した。	・H15年に上田市立博物館で企画展を開催。	・この秋の中村直人展開催に伴い、上田市に作品1点の寄贈があった。

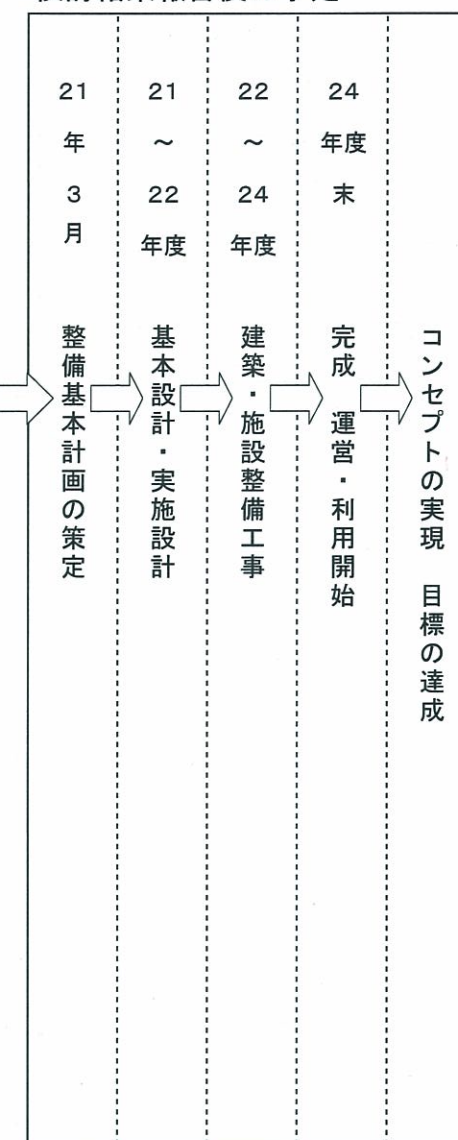
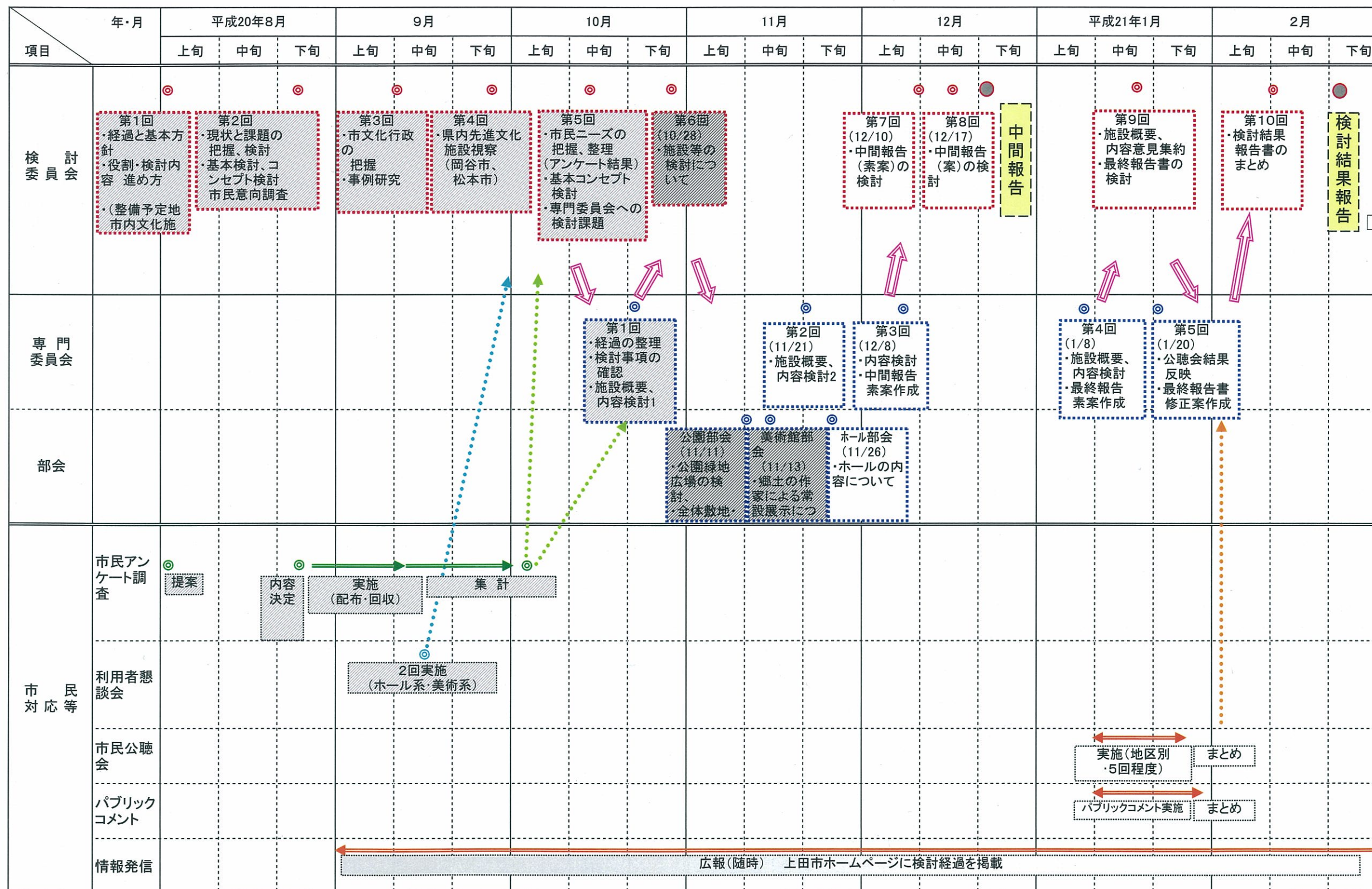
※総合美術館建設研究委員会からの総合美術館構想では、中村直人を除く3人の顕彰館が提言されている

美術館規模と構成

美術館構想及び美術団体要望				計画案	
室名	内容		床面積 (㎡)		床面積 (㎡)
常設展示	山本鼎	作品展示室	洋画・版画農民美術・自由画教室	198	1,089
		資料室		132	
	石井鶴三	作品展示室	彫刻 天井6m以上、自然光 絵画・版画・挿絵・資料	330	
		資料室		132	
	ハリー・K・シゲタ		地下入り口前面設置	165	
収蔵作家展示室		壁画絵画等	132		
企画展示室	企画展用 特別展用	可動壁付 日本画・書道壁面天井高	495	693	
企画展示室	市民ギャラリー	(企画・特別展示に転用)	198		
収蔵庫1 収蔵庫2 収蔵庫3		全収蔵庫地下設置 写真暗室・収蔵 中段設置	660	660	
学習室1 学習室2 アトリエ	内容別実技室		115 115 115	543	共用会議室利用可能
講堂	講座・講演会	ステージ・スクリーン 椅子席100 予備席加算	198		共用大会議室 又は小ホール利用可能
倉庫 休憩室			165	165	
市民サービス施設	美術図書室 ミュージアムショップ ティールーム	情報システム・ビデオコーナー 農民美術・書籍・グッズ販売 軽食喫茶	198	198	共用部分に設置可能
エントランスホール カウンター	玄関ホール休憩室・室内国際表示 受付・入館室		330	330	共用部分に設置可能
事務室 学芸員室 資料室・準備室 会議室 館長室 応接室	職員5名・臨職2名 合計7名規模 学芸員7名・講師3名 合計10名規模 書庫兼用・コンピューター設置 (学芸員)		50 66 132 66 66	380	共用事務室使用 共用施設利用可能
荷解き室 トイレ	地上1階、搬出入口	トラックが入る	132 132	594	共用部分に設置
機械室・エレベーター 自家発電気室	地下設置		330		共用部分に設置可能
施設面積計				4,652	※塗潰し以外
通路、階段等	30%			1,396	3,052㎡
延べ床面積				6,048	(参考)

検討委員会の進め方について(案)

検討結果報告後の予定



交流・文化施設整備等検討委員会 専門委員会及び部会の開催計画予定表

平成20年11月21日
 交流・文化施設等整備検討委員会
 第2回専門委員会 資料3-2

専門委員会及び部会名	期日	曜日	時間	会場	内容	委員出席範囲	
公園広場部会	平成20年	11月11日	火曜日	午後5時～7時	上田市役所3階 第2応接室	公園緑地及び広場の内容検討、 全体敷地・景観の検討	日端委員長、土本委員
美術館部会		11月13日	木曜日	午後3時～5時	上田駅前ビルパレオ 2階会議室	美術館の検討	日端委員長、土本委員、 伊藤委員、太田委員、 滝澤委員
第2回専門委員会		11月21日	金曜日	午前10時～12時	都道府県会館 406号室	公園広場・美術館部会の報告と検討	専門委員全委員
ホール部会		11月26日	水曜日	午前9時～11時	上田駅前ビルパレオ 2階会議室	ホールの検討	日端委員長、美山副委員 長、土本委員、佐田委 員、津村委員、関田委員
第3回専門委員会		12月8日	月曜日	午後5時30分 ～7時30分	東京国際フォーラム G509会議室	全体検討、中間報告素案作成	専門委員全委員
第4回専門委員会	平成21年	1月20日	火曜日	午前9時～11時	上田駅前ビルパレオ2階会議室	施設概要、内容検討、最終報告素案作成	専門委員全委員
第5回専門委員会		2月 日			上田駅前ビルパレオ2階会議室 (予定)	公聴会結果反映、最終報告書修正案作成	専門委員全委員

第7回検討委員会	平成20年	12月10日	水曜日	午後1時～3時	上田商工会議所 4階議員会議室	中間報告書(素案)の検討	検討委員全委員 (なお、専門委員会から は、日端委員長、土本委 員、美山委員、伊藤委員)
第8回検討委員会		12月17日	水曜日	午後3時～5時	上田商工会議所 4階議員会議室	中間報告書(案)の検討	検討委員全委員 (なお、専門委員会から は、日端委員長、土本委 員、美山委員、伊藤委員)